

③UGT1A1多型解析について

UGT1A1*6とUGT1A1*28の遺伝子多型

遺伝子型		UGT1A1*28 (TA) 6 → (TA) 7		
		-/-	-/*28 (ヘテロ接合)	*28/*28 (ホモ接合)
UGT1A1*6 211G → A	-/-	①	②	③ *28 ホモ接合体 (UGT1A1*28/*28)
	-/*6 (ヘテロ接合)	②	③複合ヘテロ接合体 (UGT1A1*6/*28)	※
	*6/*6 (ホモ接合)	③ *6 ホモ接合体 (UGT1A1*6/*6)	※	※

① UGT1A1*6とUGT1A1*28をとにもたない。

② UGT1A1*6またはUGT1A1*28をヘテロ接合体としてもつ。

③ UGT1A1*6またはUGT1A1*28をホモ接合体としてもつ、もしくは複合ヘテロ接合体としてもつ。

※存在しないが極めてまれ。

③の患者では、イリノテカン塩酸塩水和物投与により重篤副作用（特に好中球減少）が発現する可能性が高くなる。

①②の患者でも重篤な副作用が発現する可能性がある。

副作用の適中率

薬剤投与方法 (イリノテカン塩酸塩水和物)		併用投与		単剤投与	
報告例		Ando ^{*1} (単剤投与も含む)	Minami ^{*2}	Minami ^{*2}	Yamamoto ^{*3}
	N数	118	117	55	36
①②群	陰性適中率	80%	58%	80%	81%
③群	陽性適中率	45%	92%	80%	80%

*1: グレード4以上の白血球減少、および/またはグレード3以上の下痢

*2, *3: グレード3以上の好中球減少

【参考文献】

*1 : Ando Y.et al. : Cancer Res. 60, 6921 (2000)

*2 : Minami H. et al. : Pharmacogenetics and Genomics. 17, 497 (2007)

*3 : Yamamoto N. et al. : Clin Pharmacol Ther. 35, 149 (2009)